2021/1/25 <No.93>
発行元：りそなホールディングス
市場企画部

りそな外為レポート
りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

新政権に問われる「実行力」 (P2)

りそな銀行　市場トレーディング室
カスタマーディーラー　伊藤 一輝

今週のドル円予想レンジ　102.70 ～ 104.25

りそなWEEKLY COLUMN

読者への挑戦Ｘ　～　今年の恵方は南南東　～ (P3)

関西みらいフィナンシャルグループ
ストラテジスト　石田　武

- **読者への挑戦Ｘ**
- **今年の節分は2月2日？　閏年と暦の仕組み**
- **マーケットと暦の関係**
- **解決編**

◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2021/1/25

発行元：りそなホールディングス
市場企画部

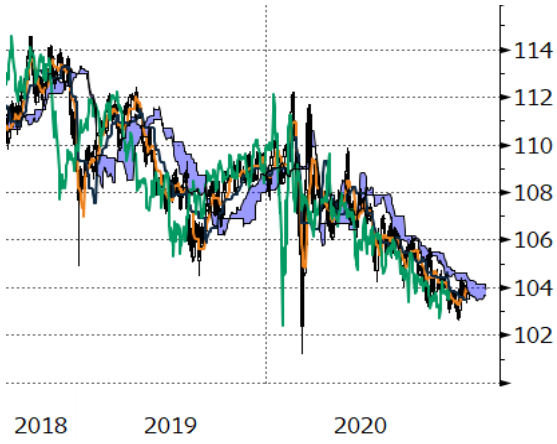
りそな外為レポート

新政権に問われる「実行力」

今週のドル円予想レンジ　102.70 ～ 104.25

（りそな銀行市場トレーディング室予想　発行当日の10時時点）

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

先週はバイデン新政権樹立への期待が先行し、リスク選好のドル売り・円売りが優勢となった。イエレン次期財務長官の公聴会での発言は特にサプライズなし。また、日銀・ECBは2021年最初の会合を実施したが、市場の予想通り金融政策を据置いた。

今週はFOMC開催と米GDP速報値(10-12月期)の発表を控えるが、ドル円相場の動きは引き続き鈍いと予想する。パウエル議長を含む多くのFRB高官は「出口戦略についての言及は、現時点では時期尚早」との考えを貫くだろう。注目は新政権が掲げる1.9兆ドル規模の景気刺激策の実現性に集まるだろう。上院議会は民主党が制したが、議席数は僅差であり、法案として1.9兆ドル満額を可決することは容易でない。Easy to say, hard to do.(言うは易く、行うは難し)という言葉があるが、ここからが正念場といえる。

（カスタマーディーラー　伊藤 一輝）

◆ 今週の日程

25日 (月)	独	1月IFO景況感指数
25日 (月)	米	2年国債入札
26日 (火)	米	1月消費者信頼感指数
26日 (火)	米	5年国債入札
27日 (水)	米	FOMC（結果発表）

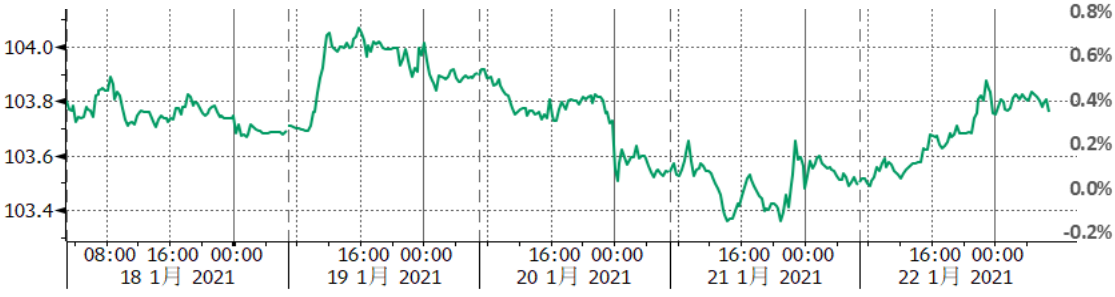
28日 (木)	米	20/4Q GDP（速報値）
28日 (木)	米	12月新築住宅販売
28日 (木)	米	1年国債入札
29日 (金)	日	12月鉱工業生産
29日 (金)	日	日銀「主な意見」（1/20、21）

◆ 今週の予想（ドル高 強い↑ 普通↑ ドル安 強い↓ 普通↓）

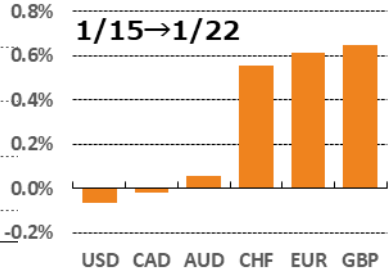
NY引け値 1月22日(金) 103.78円 VS 1月29日(金)

東京										大阪			埼玉			
井口	中根	石川	湊	小新	田中	中里	伊藤	村永	小林	鈴木	武富	上野	小林	津田	石井	佐藤
↑	↓	↓	休	↓	休	↑	↓	↑	↓	↓	↓	↓	↑	↑	↑	↑

◆ 先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



出所：Bloomberg

◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2021/1/25

発行元：りそなホールディングス
市場企画部

りそな WEEKLY COLUMN

読者への挑戦Ｘ　～　今年の恵方は南南東　～

- 読者への挑戦Ｘ
- 今年の節分は2月2日？　閏年と暦の仕組み
- マーケットと暦の関係
- 解決編

関西みらいフィナンシャルグループ
ストラテジスト　石田　武

➢ 読者への挑戦Ｘ

【読者への挑戦Ｘ】
本日、2021年1月25日は月曜日です。
では、次に1月25日が月曜日となるのは、何年後でしょう？
カレンダーを見ずに考えてみてください！

➢ 今年の節分は2月2日？

もうすぐ節分です。節分とはその名の通り、「季**節**を**分**ける日」のことを表し、元々は立春、立夏、立秋、立冬の前日のことを指していたようです。旧暦では立春前後の新月の日を元日（旧正月）と定めていたこともあり、立春の前日の節分が特に重要な日とされ、様々な行事が行われるようになったようです。現在でもお正月のことを「新春」と呼ぶのは、その名残のようです。ちなみに関西では節分に恵方巻を食べる習慣がありますが、みなさんの地域ではいかがでしょうか。

私にとっても節分はとても重要な日です。と言うのも、妻の誕生日が2月2日なのですが、以前、一度だけ2月3日と勘違いしてしまったことがあり、とても申し訳ないことをしてしまったことがあるのです。もう10年も前のことですが、それ以来、どうしても毎年、2日なのか3日なのかで不安になってしまい、その度に「節分じゃないほう」と確認しているのです。今年も2月が近づいてきたので、念のためカレンダーを確認しておくことにしたのですが・・・

ん？・・・節分は2月2日？じゃあ誕生日は3日・・・？あれ、そうだっけ？？

慌てて昨年のカレンダーを確認すると、2020年の節分はやはり2月3日になっています。しかし今年はどのカレンダーを確認しても、節分は2月2日になっており、どうやら私が見たカレンダーの間違いではないようです。そうです、お気づきの方も多いかと思いますが、2021年の節分は例年より1日早いのです！（気付いてよかった・・・）

なぜこのようなことが起こるのでしょう？来年以降の保険のため、少し調べてみたところ（と言ってもいつもながらWikipedia頼みですが）、やはり閏年と同じように、地球の公転周期が関係しているようです。

◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2021/1/25

発行元：りそなホールディングス
市場企画部

りそな WEEKLY COLUMN

➢ 閏年の仕組み

まずは閏年について確認してみましょう。地球の公転周期は約365.2422日だと言われております。現在使われているグレゴリオ暦では1年が365日なので、毎年0.2422日（約６時間）ずつズレていってしまいます。これを調整するために、4年に一度の閏年で2月29日を挿入し、ズレを直しているのです。ちなみに1年でズレるのは0.25日ではなく0.2422日なので、4年に一度、1日を追加しても厳密には元には戻りません。それを更に調整するため、100年に一度、100の倍数の年には閏年がスキップされます。しかしここでひとつ疑問が沸きます。21年前の2000年（100の倍数です）、そんなことが話題になったでしょうか？現在ほど携帯電話が一般化してはいませんでしたが、さすがにそんなことがあれば少しは話題になっていたはずです。

結論から申し上げますと、2000年は閏年として2月29日が存在しました。先程、100の倍数の年は閏年がスキップされると申し上げましたが、更にその４回に一度、つまり400年に一度、例外的に閏年になるのです。次は2400年です。2000年に閏年があったことは、それだけ珍しいことだったのです。

➢ 節分は変動制？

節分が1日ズレるのも、基本的には同じ仕組みです。ただしこちらはもう少し複雑になるので、国立天文台のホームページとWikipediaに載っている早見表を転載させていただきます。これによると立春（天文学で太陽黄経が315度になる日）が常に2月4日（＝節分が2月3日）となるのは、実は1985年から2020年までの、限られた期間だけだったことわかります。1984年までは、むしろ1日後ろにズレる（立春が2月5日で節分が2月4日になる）ことが定期的にあったんですね。1986年生まれの私にとっては節分は固定日でしたが、実は変動制だったんですね。ちなみに前回、節分が2月2日だったのは明治30年（1897年）、なんと今から124年も前のことでした。暦と言うのは不思議ですね。

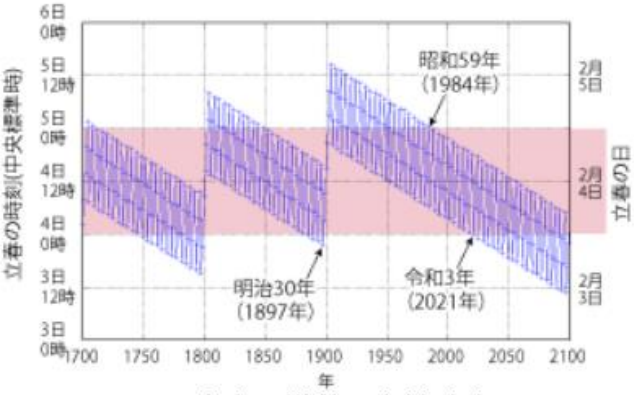


図1：立春の推移(予測を含む)

出所：国立天文台ホームページ

節分の日付(未来は予測)

年	4で割った余り			
	1	2	3	0
1873年－1884年	3日	3日	3日	3日
1882年－1900年	2日	3日	3日	3日
1901年－1917年	3日	4日	4日	4日
1915年－1954年	3日	3日	4日	4日
1952年－1987年	3日	3日	3日	4日
1985年－2020年	3日	3日	3日	3日
2021年－2057年	2日	3日	3日	3日
2055年－2090年	2日	2日	3日	3日
2088年－2100年	2日	2日	2日	3日
2101年－21??年	3日	3日	3日	4日

出所：Wikipedia

◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2021/1/25

発行元：りそなホールディングス
市場企画部

りそな WEEKLY COLUMN

➢ マーケットと暦の関係

マーケットの世界でも、日柄というのは非常に重要な概念です。セルインメイという格言に代表される「季節性」という要素は、アノマリー（因果関係は不明ながら相場へ影響を与えるもの）でありながら、我々の投資行動に大きく影響を与えています。

また、先人たちの間では相場を予測するにあたり、干支や陰陽五行、星の運行等が重要な要素と考えられておりましたし、現代でも占星術を相場予測に取り入れたメリマン・サイクルが注目されることもあります。太陽の黒点の数や金星・水星等の逆行現象が注目されることもあったりします。日本で生まれたテクニカル分析である一目均衡表では、縦軸（価格）と同じかそれ以上に、横軸（時間）が重要な要素とされています。

さて、株式市場は1月に相場が上昇しやすい「1月効果」というアノマリーがありますが、確かに年明け以降の日本株市場は30年振りの高値を更新する等、堅調に推移しています。一方で、「節分天井、彼岸底」という格言も存在します。株価は節分の頃に一旦天井をつけて下落トレンドに入りやすく、彼岸（春分の前後、3月中旬）の季節に底打ちして再び上昇トレンドに入りやすい、というアノマリーを指したものですが、奇しくも昨年（2020年）の相場に概ね当てはまっている点は侮れません。バブル後高値を更新して活況に沸く日本株市場ですが、「日柄調整」には気を付けたいところです。

（投資は自己判断でお願いいたします）

※2020年1月～6月の
日経平均株価
（Bloombergより筆者作成）

➢ 解決編

【解決編】

1年は365日なので（閏年除く）、「52週間と1日」と言い換えることができます（7×52+1＝365）。よって、同じ日付の曜日は1年経つ毎に1日ずつ後ろへズレていき、今年月曜日だった日は、来年には火曜日となります。ただし、ここまで何度も出てきた閏年の日は366日（52週間と2日）となり、2日ズレる点に注意が必要です。1月25日は2021年には月曜日なので、2022年に火曜日→2023年に水曜日→2024年に木曜日→2025年に土曜日→2026年に日曜日、となり、6年後の2027年に再び月曜日となります。閏年を２回挟む場合や、3月以降（＝2月29日以降）の日付の場合は、また結果が変わってきますのでご注意ください。

以上

参考文献：
節分や閏年に関しては、国立天文台暦計算室のホームページやWikipediaの記述を参考にしております。

◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。